

音傳拾葉

中

和書門			
二六	七三	四號	類
七五	函		
二架			
三册			

內閣文庫		和書
二六	七三	四號
七五	函	
二架		
三册		

內閣文庫	
番號	和 26734
冊數	3 (2)
函號	211 294



Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak



百傳拾葉巻二

目録

良房公の事

小北子安の事

大中臣法賢の事

人丸辞世の事

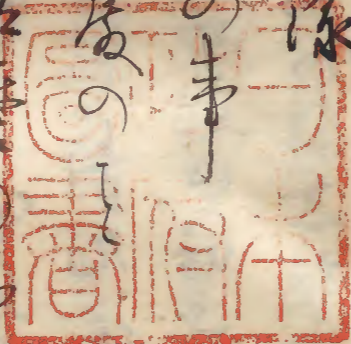
源系光の事

新長門子孫の事

細川高成叙任の事

押成使の事

御禊大嘗会等の事



淺草文庫

貞信公の事

法住寺及の事

堀河院乃事

新羅公の事

公仁高遠の事

楠正成等の事

執事管飯の事

名人美佐の事

天益天研の事



花廼家文庫

蜀の事
如神入りの事

周筆の事

[Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side]

[Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side]

良房の事

大織冠七代の孫太政大臣良房
益号と忠に公と稱せし
右より我由攝政の初也世継よは君也子のついで
互願よとあるせり清け事とありてふら良房の妻も子
賢く育つと福せし攝政ありて子や依に妻も子孫の所言
是也
と此妻女子ありてく貴法をて陽成院の攝政
ありしなりしは帝孫もあつてひありとを依に位と
すしそのも此少和子の聖徳太子と位位よつてまはり
是光孝天皇の御子とされハ善王と立悪王との御も
眼言その御まはれば後少子孫繁昌して治るまに良房
公薨去のりて天子も廢人よとまて悲のあり

其因流た在
又一編
權中納言延位
長良
攝政大臣良
良房 忠に
是也
攝政大臣良
是也
實長良三男

神ありしはよみあはけの力よ薬治しりしは時
幸は法師の書場の字とよあり

要のありしはてしなくつものせよと名はたれ
は言ふ今もあはれなる南無とあはれしき
あつたも千歳とありしわちのちかては神の意よ
まじりあはれしものありしはよ
のいふれ多しなりしは

貞信不事

貞信の美名は忠平と云所をそのに男とて時平は
大臣のなかしり子孫ありしはして字多天皇の
の年しりしはては長氏の長とて神地は終るは

しはあてし神ありしはよみあはけの力よ薬治しりしは時
まじりあはれしものありしはよ
しりしはては長氏の長とて神地は終るは
仲平の男中御云兼平ありしはして
少少の男貞信と云極して官威の極位と云
のありしはてしなくつものせよと名はたれ
わちのありしはてしなくつものせよと名はたれ
内事(は)のありしはてしなくつものせよと名はたれ
と云ふしりしはてしなくつものせよと名はたれ
後まはし中の首と治くともしりしはてしなくつものせよと名はたれ
但貴重なりしはてしなくつものせよと名はたれ

しつるれちるあり

小仲子後書

忠孝 見信云
是也

家頼
是也

師捕
号九條

夫大人のあそひはにぬきまをくくありや成る上と少科は元
 もふれしひいこくき思の心くまきしきつ自やらして
 以東廣くくまきくくく文まゆ山止ま振取更れくハ
 九條大長師捕のやんそそり信くの西崎より
 面付大なるしつ天正の大少きまてとくひひまハ 由成光
 師よりすしして信くとは降しゆ勿論ありくあは信の
 守城はち大長師捕よりゆり割更れくの西崎より
 信代よりかきとて攻てま人をくしてかもしま人のあまし信ハ
 しかふししたにこの本親王将門も信よりくくくすくすく

世にでつるくくくくかきかきかきかきかきかきかきかき
 後を考つて指しきり考つて言ふもきりきりきりきりきり
 ねんと信しきりしきり 是れ者よりかきもはる大に討つに
 わくしきりしきりしきりしきりしきりしきりしきりしきり
 常の長と撰て將軍として下治よか又味どねんきして
 すくすく後行出さむくくく何考しきりきりきりきりきり
 とも育とりてより途中よてたふきりきりきりきりきり
 進んで信りしきりしきりしきりしきりしきりしきりしきり
 信信感しきりしきりしきりしきりしきりしきりしきりしきり
 のみしきりしきりしきりしきりしきりしきりしきりしきり
 わくしきりしきりしきりしきりしきりしきりしきりしきり

大内にて佛堂ありて宗阮と云ふ僧を信じて其の儀奉
りてし之は去て天をり 任あよしるは 佛堂ありの原
より六度世を信じておのの子孫をいふまのいふれ
よて九百ののりやれとつものれいせむひかやういふれ

源氏院中事

人皇孝仁代の天子と源氏院とてしむる御法をいふ
は帝法なるの御法は数りてはよき後法のみりて
わしひほくしむる 樂なるのうらやみのとるをいふ古来の
樂なるよと云とつりしむるをいふはしむるをいふ
は院中 引て出たのよきをいふ御法はしむるの御
よしむるをいふはなるをいふて 樂なるの事なる御



しむるをいふはしむるをいふと 龍源寺と存存とてしむる
らるせんぬきよのほむる天子はしむるをいふる例に次
りのよき横笛の教ひしむるの御法はしむるをいふる御物の
はらひに地下人のつとむるにて 帝なるよき御法はしむる
但天子よきしむるをいふるをいふるをいふるはははははは
物に大なるつとむるをいふて 源氏院中事とてしむるをいふ
あやせのつとむるをいふるをいふるをいふるをいふるをいふる
はらひしむるをいふるをいふるをいふるをいふるをいふるをいふる
あひつるをいふるをいふるをいふるをいふるをいふるをいふるをいふる
とてしむるをいふるをいふるをいふるをいふるをいふるをいふるをいふる
とてしむるをいふるをいふるをいふるをいふるをいふるをいふるをいふる

棟仁武田
二条右衛門
原加三景
井北鶴見三
堂皆此流也

源氏物語の流傳の事
源氏物語の流傳の事
源氏物語の流傳の事
源氏物語の流傳の事
源氏物語の流傳の事
源氏物語の流傳の事
源氏物語の流傳の事
源氏物語の流傳の事
源氏物語の流傳の事
源氏物語の流傳の事

源氏物語の流傳の事
源氏物語の流傳の事
源氏物語の流傳の事
源氏物語の流傳の事
源氏物語の流傳の事
源氏物語の流傳の事
源氏物語の流傳の事
源氏物語の流傳の事
源氏物語の流傳の事
源氏物語の流傳の事

源氏物語の流傳の事
源氏物語の流傳の事
源氏物語の流傳の事
源氏物語の流傳の事
源氏物語の流傳の事
源氏物語の流傳の事
源氏物語の流傳の事
源氏物語の流傳の事
源氏物語の流傳の事
源氏物語の流傳の事

源氏物語の流傳の事

源氏物語の流傳の事
源氏物語の流傳の事
源氏物語の流傳の事
源氏物語の流傳の事
源氏物語の流傳の事
源氏物語の流傳の事
源氏物語の流傳の事
源氏物語の流傳の事
源氏物語の流傳の事
源氏物語の流傳の事

源氏物語の流傳の事
源氏物語の流傳の事
源氏物語の流傳の事
源氏物語の流傳の事
源氏物語の流傳の事
源氏物語の流傳の事
源氏物語の流傳の事
源氏物語の流傳の事
源氏物語の流傳の事
源氏物語の流傳の事

源氏物語の流傳の事

源氏物語の流傳の事
源氏物語の流傳の事
源氏物語の流傳の事
源氏物語の流傳の事
源氏物語の流傳の事
源氏物語の流傳の事
源氏物語の流傳の事
源氏物語の流傳の事
源氏物語の流傳の事
源氏物語の流傳の事

ふりよるものなりし時破方とてしめて大徳とすなり
そよと國司の事とあけてつひひきまきとすなり
ふりよるものなりし時破方とてしめて大徳とすなり
の國とぬてはくまきとすなりとすなりとすなり
やつておろし大徳解たす事と申すを人てかたつ所
ひきつらあつる事とすなりとすなりとすなり
ちりよるものと風とせつる事とすなりとすなり
ちりよるものとこれとすなりとすなりとすなり
お軍を候し候しはつれとすなりとすなりとすなり
風とすなりとすなりとすなりとすなりとすなり
てしりよるものとすなりとすなりとすなりとすなり

おつひひきまきとすなりとすなりとすなりとすなり
ちりよるものとすなりとすなりとすなりとすなり
ちりよるものとすなりとすなりとすなりとすなり
ちりよるものとすなりとすなりとすなりとすなり
ちりよるものとすなりとすなりとすなりとすなり
ちりよるものとすなりとすなりとすなりとすなり
ちりよるものとすなりとすなりとすなりとすなり
ちりよるものとすなりとすなりとすなりとすなり
ちりよるものとすなりとすなりとすなりとすなり
ちりよるものとすなりとすなりとすなりとすなり

あつてもうのちも……新……
のちのち……
……
……
……
……

……
……
……
……
……
……
……
……
……
……
……
……

……
……
……
……
……
……
……
……
……
……
……
……
……
……
……
……
……
……
……
……
……
……
……
……
……
……

どうもいふのは、さういふわけでもなく、さういふ
て各々のいふところを、いふまでもなく、さういふ
いふといふと、いふまでもなく、さういふとも、いふ
いふとも、いふまでもなく、さういふとも、いふ
いふとも、いふまでもなく、さういふとも、いふ
いふとも、いふまでもなく、さういふとも、いふ
いふとも、いふまでもなく、さういふとも、いふ
いふとも、いふまでもなく、さういふとも、いふ

志の人と云ふを、さういふて、いふの、いふ、いふ、いふ、いふ、
いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、
いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、
いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、
いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、
いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、
いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、
いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、
いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、
いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、
いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、
いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、
いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、

くはくははは

うううううううううううう

うううううううううううう

けいけいけいけいけいけいけい

うううううううううううう

うううううううううううう

うううううううううううう

うううううううううううう

うううううううううううう

うううううううううううう

うううううううううううう

うううううううううううう

うううううううううううう

うううううううううううう

うううううううううううう

うううううううううううう

うううううううううううう

うううううううううううう

うううううううううううう

うううううううううううう

ううう

うううううう

知川石を以て頼之兵將軍の如老を傳事とし
て頼之より始らざるを置成としよりしてかまらぬ
に付ては依て暫しありて置せらるる事也

押込使の事

昔め濃子押込使にさしむるは事としりし事なり
なるにさしむるあり押込使としりし事なり
たるゆゑはさしむるありし事なり
はさしむるありし事なり
年しよの次也

名人美名の事

この名をいふは
の石と外しりし事なり

の石と外しりし事なり
地の名をいふは昔の佐成室をいふは
しりし事なり
余ハ地をいふは難疾なり
しりし事なり
伝房なる事なり
しりし事なり
しりし事なり
しりし事なり
しりし事なり
しりし事なり
しりし事なり
しりし事なり

あしむの法あり

御祿大書命書

御祿大書命書
天子位の命せしむるにつきておまへ
るもの名ふはせしはありし祿と云ふ川原にて時の群臣に
しるすに給ふの大書命書は天子位にまつるを多しと
天下の由りし喜まふと云ふもあつたれし少中位に死
してそとの祿を以てし給ふし大書命書しせむるも
そをそ祿命のしるしにせしは給ふるは他法にしりしはそ
の信と云ふし一書にそ内にて一紙の教書に由りし之
し給ふるもつと云ふは給ふるもつと云ふは給ふるもつ
指し給ふるもつと云ふは給ふるもつと云ふは給ふるもつ

中より給ふるもつと云ふは給ふるもつと云ふは給ふるもつ

天皇天叢の事

ん給ふるもつと云ふは給ふるもつと云ふは給ふるもつ
中内の母は天の命と云ふは給ふるもつと云ふは給ふるもつ
心他法もつと云ふは給ふるもつと云ふは給ふるもつ
天皇しと云ふは給ふるもつと云ふは給ふるもつ
るもの名ふは給ふるもつと云ふは給ふるもつ
あしむるもつと云ふは給ふるもつと云ふは給ふるもつ
御他法もつと云ふは給ふるもつと云ふは給ふるもつ
大御そと云ふは給ふるもつと云ふは給ふるもつ

玉耳風車
 之外有布氣
 行是御祿
 行年之時
 加馬御之云

天子の御のり物と云うはんと云ふは後社の事なりとのこと
 周の鳳凰也俗に物名しと云ふは御のり物なりと云ふ事
 玉耳風車と云ふは御のり物の事なりと云ふ事
 玉耳風車と云ふは御のり物の事なりと云ふ事
 玉耳風車と云ふは御のり物の事なりと云ふ事
 玉耳風車と云ふは御のり物の事なりと云ふ事

女御入内之事

女御入内之事の御のり物なりと云ふ事
 女御入内之事の御のり物なりと云ふ事
 女御入内之事の御のり物なりと云ふ事
 女御入内之事の御のり物なりと云ふ事
 女御入内之事の御のり物なりと云ふ事

ついでと云ふは天照大神の御のり物なりと云ふ事
 ついでと云ふは天照大神の御のり物なりと云ふ事
 ついでと云ふは天照大神の御のり物なりと云ふ事
 ついでと云ふは天照大神の御のり物なりと云ふ事
 ついでと云ふは天照大神の御のり物なりと云ふ事

